



令和4年8月26日(金) 草津市立渋川小学校 学校だより 第4号

2学期もよろしくお願ひします

昨日は、終わってしまうのが寂しい夏休みとお別れの日でした。夏休み中は、心身を休めたり、学期中にはなかなかできない体験をしたり、思いっきり本を読んだり、部屋の大掃除をしたり、習い事やスポーツに普段以上に打ち込んだり、自分で決めたことを続けてみたり、家族や友達と思いっきり遊んだり・・・色々な夏休みがあったことと思います。子どもたちは生き生きと夏の体験を話してくれることと思います。楽しみです。そして、今日は元気な子どもたちの笑顔が学校に戻ってきたことがとても嬉しい2学期初日です。今学期もどうぞよろしくお願ひいたします。

新型コロナ感染予防等対応

令和4年8月19日付けで文部科学省「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン」が改訂されたことを受けて、本市においても、本日から次のように臨時休業について対応しますので、お知りおきください。

1 休業範囲

(1) 学級単位の臨時休業(学級閉鎖)

① 同日に同一の学級において2名以上の児童等の感染が判明した場合。

ただし、児童生徒の発症時に、発症から遡って2日前までに学校外で感染者もしくは濃厚接触者との接触もしくはその疑いがあり、学校外での感染と判断した場合は、この限りではない。

② 感染が確認された者が1名であっても、周囲に未診断の風邪等の症状を有する者が複数いる場合。

(2) 学年単位の臨時休業(学年閉鎖)

① 同日に学年の複数学級で学級閉鎖を行う場合。

(3) 学校全体での臨時休業

① 学年閉鎖の上で他学年に複数の感染者が確認される等、さらなる感染拡大が懸念される場合。

2 休業期間

学級閉鎖等が必要となった日の翌日から原則3日間、最長5日間

3 その他

○ コロナによる差別や偏見、いじめにつながる言動に関する相談窓口 人権教育係(561-6034)

○ 児童および保護者が受診した医療機関からPCR検査等を受けた場合、学校にお知らせください。

○ ご家族に検査を受けている方がいる場合は、登校を控えてください。また地域の感染レベルが「レベル2」以上の時は、同居家族に未診断の発熱等の症状がある場合も、登校を控えてください。

○ 登校前検温等を継続し、体調が優れない場合はご家庭で休養させてください。

○ 学校外活動で感染が疑われる状況がある場合、所属団体の接触者特定が終わるまで登校を控えてください。

※ 詳しくは、市ホームページ掲載の「市立小中学校の臨時休業基準の変更について」をご覧ください。



給食エプロンについて

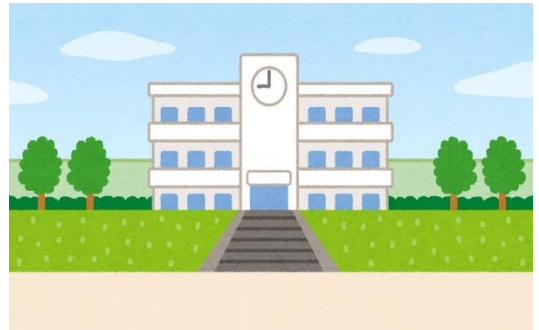
8月30日(火)から給食が始まります。給食当番のエプロンと三角巾(バンダナ等も可)のご準備を各ご家庭でお願いします。エプロンは全員がロッカーに保管した状態にし、給食当番を行った児童のみ、その週の金曜日に持ち帰りますので、洗濯ができ次第再度持たせていただきますようお願いいたします。エプロンの形については、体の前面全体が覆われるものをご準備ください。

なお、今まで通り、学校のエプロンを貸し出すこともできますので、併せてお知らせください。

本校は創立20周年を迎えます

渋川小学校は、来年4月に創立20周年を迎えます。

本校は、昭和31年に栗東町(旧治田村)渋川が草津市に編入され、その後平成15年4月に、草津第二小学校から分離開校し、約20年を経て現在に至ります。開校に当たっては地域の方々の強い思いがあったことや、地域から大切にしてくださいたい今があることを聞いております。この間、駅周辺等を含む校区内の様子も学校の近隣も、大きく様変わりしており、時の流れを感じます。



本来であれば感謝の気持ちを込めて地域の方もお招きしての周年事業を開きたいところではありますが、コロナ禍の状況が長引いていることや、次第に対応が小さくなる傾向にはあるものの今後の状況がまだまだ不透明でもあることから、たくさんの人を集めての式典等は予定していませんが、今年の秋に航空写真の撮影を行うなど、ささやかであっても20周年の節目をみんなで慶びたいと考えています。また、渋川学区の皆様へ記念のクリアファイルをお配りすることも考えています。

具体的には今後お知らせしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

全国学力・学習状況調査結果から

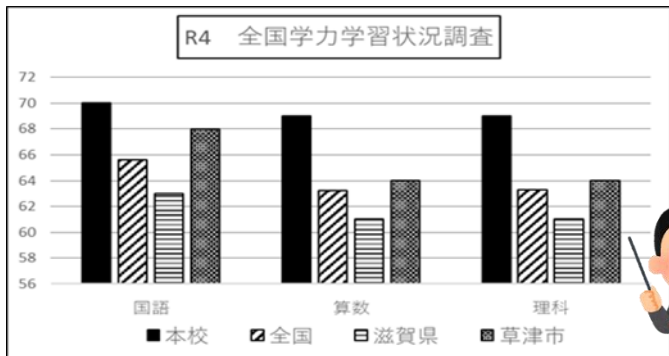
本年度も、4月19日に全国学力・学習状況調査が行われ、その結果が返ってきました。現在分析を進めているところですが、全体的な状況をお知らせします。

全体的には良好な状況です

右のグラフは教科別正答率です。本校は全国、滋賀県、草津市のいずれも上回ってお正答率が高いことがわかります。

教科ごとの特徴

- ・国語科では「読むこと」の正答率は高いですが、「書くこと」は苦手な傾向です。
- ・算数では「データの活用」「変化と関係」の正答率は高いですが、「図形」は苦手な傾向です。
- ・理科では、「生命」「地球」の正答率は高く、「エネルギー」「粒子」は苦手な傾向です。



無解答率が高く記述式問題が苦手です

昨年度よりもやや良好な傾向があるものの、やはり今年度も無解答率の高さが気になります。正答率が全国平均を上回っている問題であっても無解答の子どもも多いです。子どもたちが解答をしていない問題の多くは記述式の問題です。

また、家で学校からの課題で分からないことがあったとき「先生に聞いたり」「友だちに聞いたり」する子どもがともに全国より少なく、「そのままにしている」子どもが全国平均より多いようです。

思考力・判断力・表現力が向上しています

思考力・判断力・表現力を測る問題群の正答率が伸びています。授業において「学び合い」を重視して対話したり協働したりしながら学ぶ活動を行っており、そうした成果が出始めていると捉えています。今後、タブレット等のICT機器の有効活用をいっそう進め、これから社会に出て行くときに求められる能力がしっかりと身に付けられるように、さらに授業改善をしていきたいと考えています。

家庭での学習習慣が身についている子ども、読書好きな子どもが多いです

普段、学校以外で一日あたり2時間以上勉強をしている子どもの割合が高いほか、読書好きな子どもが多い結果です。このことは両方とも、教科の問題の正答率の高さと関連があると捉えています。

「自分には良いところがある」と思う子どもが増えました

「自分には良いところがある」と思う割合が低いことが本校児童の課題ですが、今回はこれまでで最も高い肯定率になるとともに、全国平均も僅かではあるものの上回りました。子どもの自尊心を高めるために今年度各学級で行っている取組を今後も継続していきたいと考えています。



29日(月)に全国学力・学習状況調査の
個票をお返します。ぜひ、今後の家庭学習に生
かすようにしてください。